

作家

安部龍太郎

RYUTARO ABE



その時代と魂

2024

10/26 (土) 12/15 (日)

開館時間 9:00-17:00

(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)

主催 八女市・八女市教育委員会

協力 安部龍太郎事務所

入館料 無料

八女市田崎廣助美術館

福岡県八女市立花町原島 108-1

TEL 0943-24-8304

長谷川等伯「松林図屏風」(国宝、部分)東京国立博物館 所蔵

出典: ColBase(<https://colbase.nich.go.jp/>)

作家

安部龍太郎

―その時代と魂―

安部龍太郎（本名・良法）は、十八歳のころ、「高度経済成長に向かって突き進む一九七〇年代の日本の価値観になじみず、人生に行き詰まった。」といいます。

そんな危機的な状況で出合ったのが戦後無頼派の作家たちです。特に、戦後間もない時期に刊行された坂口安吾の『墮落論』に感銘をうけ、「文学で人を救えるならば」と作家になることを強く決心したのが、十九歳の春でした。

本展では、安部の幼少期から作家デビュー前までのエピソードを写真を交えながら紹介します。そして、一九八八年に執筆した『師直の恋』で始まる作家生活、「現代小説家」から「歴史（時代）小説家」への転機等を著作本とともに紹介します。

また、直木賞受賞作『等伯』（二〇一二年）については、生原稿をはじめ、執筆にあたって調査をまとめた構想ノート等を公開します。

民衆に根差した歴史観から世界の中の日本を捉えなおす「作家 安部龍太郎」の世界をご堪能いただけたら幸いです。



第148回直木賞受賞作『等伯』生原稿

RYUTARO ABE



安部龍太郎（1955- ）

福岡県八女郡黒木町（現八女市黒木町）生まれ。国立久留米工業高等専門学校機械工学科卒。東京都大田区役所入庁後に図書館司書を務める。その間に数々の新人賞に応募し、平成2（1990）年『血の日本史』で単行本デビュー。平成6（1994）年『彷徨える帝』で第111回直木賞候補、平成17（2005）年『天馬、翔ける』で第11回中山義秀文学賞受賞。平成25（2013）年『等伯』で第148回直木賞受賞のほか受賞歴多数。代表作に『関ヶ原連判状』『生きて候』『維新の肖像』『姫神』『ふりさけ見れば』などがある。骨格の確かな作風と、日本史の根幹にかかわる大きなテーマに果敢に挑み、現在、自身の作家活動に加え舞台劇の監修や講演活動を精力的に行うなど、幅広く活躍の場を広げている。

展示について

第1章 安部良法の生い立ち

安部の幼少期から作家デビュー前までを作家本人提供の写真等を交えてご紹介します。

第2章 そして、安部龍太郎

安部の作家デビュー時のエピソードや、「信長」「秀吉」「家康」等、数多の英傑たちが刃を交えた戦国時代をグローバルな視点から見直した安部の世界観を紐解いていきます。

第3章 直木賞受賞作品『等伯』

長谷川等伯の生涯に、安部は「自身の境遇との共通点を見出した。」と語っています。安部が5年にわたる取材期間を経て執筆した直木賞受賞作を生原稿をとおして体感できるコーナーです。

第4章 過去に学ぶ

安部が背中を押されるように執筆した『特攻隊員と大刀洗飛行場』等、「過去に学ぶ」ことへの大切さを訴えます。



『等伯』（上・下巻）／安部龍太郎
2012年発行／日本経済新聞出版社



『書下ろし時代小説大全集「勝者と敗者」』『師直の恋』／安部龍太郎
1988年発行／新潮社
※安部が初めて原稿料を手にした作品



『墮落論』／坂口安吾
1947年発行／銀座出版社
※安部が作家を志すきっかけとなった書籍

アクセス

●車でお越しの場合：

九州自動車道 八女IC～《約15分》、広川IC～《約20分》
駐車場無料（八女市立花支所駐車場をご利用ください）

●電車・バスでお越しの場合：

西鉄天神・大牟田線 西鉄福岡（天神）駅～西鉄久留米駅
↓乗換 西鉄バス・八女方面「福島」《約35分》
↓乗換 堀川バス・迎春平山線「丸野」《約10分》
鹿児島本線 JR博多駅～JR羽犬塚駅
↓乗換 堀川バス・八女方面「福島」《約35分》
↓乗換 堀川バス・迎春平山線「丸野」《約10分》



八女市田崎廣助美術館

福岡県八女市立花町原島108-1
TEL 0943-24-8304

